

何故「さくら道」なんだろう？

～ 2003さくら道270kmウルトラマソン ～

(2003年4月28日～4月30日)

ゼッケンNo. 29 大平 馨

はじめに

今年もまたさくら道の時期がやって来た。もう3回目になる。春が一気にやってきたように本当に1年が早く感じる。年のせいだろうか？。昨年は例年通り、さくら道1ヶ月後に「奈良かぎろひロマンチック街道132km」に参加したが、快調に進めたにも関わらず、85km大宇陀エイドで食べた物、飲んだ物を全て一気に吐いてしまい、戦意喪失、100km地点13時間でリタイヤした。どうも以前より内臓が弱くなったように思えてない。練習量は以前と変わりなく、9月には「丹後歴史街道100km」、10月には「和歌山城～高野山往復ウルトラマソン」に参加した。丹後は2年振りの100kmだったが、11時間少しで走れた。

その後、12月には長浜～堅田、1月には貴生川～名古屋の徹夜走を行い、2月には九州の佐賀・長崎で行われた「大村湾一周160kmウルトラマソン」にも参加した。初めての往復夜行バス車内は狭かったため、眠れなかった。レースも寝不足の中、スタートから豪雨で傘差しランとなり、走ったり歩いたり繰り返した。タイム的には25時間44分掛かったが、ダメージはなかった。そして、その後の疲れもなかった。

3月は週末、積極的に量をこなした。15日に栗東～長浜66km、21日は長浜～琵琶湖半周～守山96km、29日は栗東～朽木55kmと3月は520kmも走れた。特に21日の96kmは100kmレース並みの12時間で走れた。4月になってからは2週間前の琵琶湖北部花見ランでは75kmの予定が豪雨のため41kmとなり、その後に雨の影響でいくらか体調を壊した。その上、20日頃に風邪を引き、薬を飲んだり、うがいをしたりで早く治すように心掛けた結果、27日には喉の痛みは消えていた。何とか無事でスタートラインに立てそうだ。荷物の方も3回目なので天気予報を睨みながら、できる限り少なくて済んだ。

前日

今週は火曜日に21kmを5分30秒ペースで調子良く走ったが、風邪を引いてから、どんなものか心配だったので調子を見るため、朝10km少し走ることにした。ところが1.5kmほど行ったところで信号待ちの後、3歩ほど進んだ頃、1cm位の段差に引っ掛かり転倒。膝を擦りむいてしまった。こんなことになるのなら走らなければ良かったと後悔する。通常ペースで走っている間に転倒したら、もっと大きな擦り傷になっていたと思われるので良いように解釈すれば幸いしたと考えるべきだろう。

宿谷さんが当日仕事で夜にならないと名古屋入りできないため、ひとりで名古屋に向かった。11時に栗東を出て、名古屋には13時過ぎに到着。宿泊する「東横イン」に荷物を置きに行く。パソコンが置いてあったので掲示板のチェックを行う。その後、ひとりで「熱田神宮」へ“家族の安全祈願、明日からのさくら道での安全&完走祈願”に向かった。半袖だったが、歩くだけで汗びしょりになるほど暑かった。熱田神宮は休日とあって家族連れやカップルで賑わっていた。再び、名古屋駅に戻り、駅構内にある東急ハンズに寄り、ディパック用の携帯ケースを購入。その他アウトドアグッズがいっぱいあった。東急ハンズの名前はよく聞かすが、近くにないので店に入ったのは初めてだった。駅構内を歩いていると成田さんや中江さんなど陸蒸気走友会の面々とすれ違った。



UMMLの集合場所、名古屋駅JRハイウェイバス乗り場に15時半に行くと富山の藤村さん、関さんと1年振りに再会。春井さんや丹代さん、渡部さん、藤本さん、マツちゃん&Wandaさんの長崎夫婦、宮本建一さん、藤井満博さん、今坂さん、宮城さん、奥さん、山田幸一さん、町田さん、西本さん、吉田さん、林さん、立野さん、馬杉さん達が集合。一行は熱田神宮に向かったが、私はすでに参拝を終えているので、弁当やお茶を買って、再び「東横イン」に戻り、16時からのチェックインを終える。浜野さん、橋本さんの姿があり、浜野さんは三度目の正直、前半押さえ、絶対に完走するとの強い意欲を示していた。相変わらず、よく喋る元気者だ。

UMML食事は例年同様、大名古屋ビル地下の「八角」で17時から行われた。若干遅れたので宴会はすでに始まっていた。坪内さん、鈴木さん、宮本俊二さん、水野さんに福知山の東田さんも合流。水野さんは翌日のエイドの場所や何かあればいつでも駆けつけると説明された。終わったのは19時半頃だった。店を出て、地下を歩いていると海宝さん、館山さん、城定さん達のスタッフと偶然遭遇。明日からの健闘と称え、集合写真を撮る。

一旦、「東横イン」に戻り、風呂で汗を流す。室内は暑いので窓は開けたままで十分だった。ロビーでは斉藤さんや西野さんをはじめとする巨人軍団の面々がビールで懇談されていたので挨拶する。例年通り、今村君や中平さんの姿もあった。21時に名古屋到着予定の宿谷さんを迎えるため、名古屋駅に向かうと宿谷さんから携帯に連絡が入った。どこのラーメン屋に行くか探す。

名古屋駅構内の5種類のラーメンを食べられる「名古屋駅通リ」に行くと博多ラーメンや東京ラーメンは列ができていた。しかし、狭い通路の横にあり、中も丸見えで暑く、雰囲気はもうひとつだった。宿谷さんと合流してからは高島屋13階の「江南」に行くことにした。ちょっと場所がわかりにくかったが、待ち時間はなかった。にんにくラーメンとビールで明日からの活力にした。佐原さんが同じ日の夕方行くと列ができていたそうで、時間が遅かった分幸いした。ホテルに戻るとシャワーで再度、汗を落とし、荷物の確認をして寝る。おそらく11時頃だったと思う。

当日朝

アラームで3時50分に目が覚める。結構寝起きは良かった。しかし、暑かったので汗びっしょり。シャワーで汗を落とす。弁当を食べた後、太股や足首へファイテンキネシオテープを貼り、マメ対策は足の裏のみテープを貼った。あとディクトンスポーツを塗って準備完了。ウエアはリーボックの冬用長袖ドライシャツにロングタイツ、その下はランパン。ディパックにはウインドブレーカー上下と半袖ウルトラシャツ、鎮痛剤、胃薬、アミノバイタル、バンドエイド、ティッシュ、インドメタシンクリーム、湿布、メンソレターム、小タオル、手袋、ビール用つまみ、予備のソックス、携帯電話、デジカメ、地図、お金。首と手首にはRAKUWAをした。

ロビー集合の4時50分になると松倉さんがエレベーターから降りて来られ、久々の再会。宿谷さんと3人でホテルを出て、名古屋駅JRハイウェイバス乗り場前に行くときまだ5時になっていなかった。道路側の鉄シャッターは閉まっていた。遠回りをして到着するとまだランナーは少なかった。呼び掛け人の酒井さんが見えられたので、大村湾の御礼と挨拶をする。バスは5時半頃戻って来たので、それほど待ち時間もなく、乗車できた。

スタート地点



JR東海バス名古屋営業所には6時前に到着。受付はまだ始まっていなかった。ゼッケンをもらおう今回はロングタイツに付けた。これはウエアだとトイレやウエストポーチの出し入れが困るからだ。準備し終えると梅田さん、綱村さん、長尾さん、森川さん、神園さん、西堀さん、加村さん、金沢さん、藤井郁浩さん、羽倉さん、南藤さん、太田さん、玉木さん、溝口さん、吉富さん、富依さん、2月の大村湾でお会いした富山の黒田さん、美智子さんなど知人と挨拶。ほとんどの方とは1年振りの再会だ。海宝さんに挨拶し、がっちり握手。今回は10回大会とあって海宝



さんもランナーとして走られる。そして、今年もビデオ撮影される郷さんとも挨拶。のうてんきの後藤夫妻はサポートとのこと。寺澤さんは例によって羽を頭に付けて、今年が最後というプリクラを配られていた。そのような中、小谷野さん、角田さんをNHKのTVクルーが追っていた。名古屋ローカルで16日、19時半から30分番組で放送されるらしい。夫婦、大病した人、リストラされた人が対象だと浜野さんから教えてもらっていた。

今年はバスが早く着いたので余裕がある。応援に来られた名古屋の伊藤さんは寒い時に飲むようにと「ピオオイスター」というかき肉エキスを下さった。スタート会場は実参加者が270人にもなり、人で溢れていた。集合写真撮影が終わると7時になり、スタートが切られた。

大会スタート

■JR東海バス名古屋営業所(スタート) 4月28日 7時00分

7時、一斉にスタートは切られた。たまたま居た場所の関係で前の方から走り出せた。天気予報は29日後半から雨の予報だったが、雨が降り出すのはできる限り後ろになるよう祈るばかりだ。希望だが、今回は40時間くらいでゴールしたいとの思いがあった。結果は別にして、そのつもりで臨むつもりだ。走り出すと長袖なので暑い。半袖の方が良かったのかもしれない。淡々としたいつもと同じペースで進む。歩道も狭く、前後を見ながらなので、ゆっくりだ。六反小学校前のJR高架下を潜って左折すると丹代さん、加村さんの後ろに付いた。JR名古屋駅前(4.6km)を右折する頃、駅前の通勤者からは変な目で見られていた。それはそうだろう。何の集団に見えるのだろうか？。名古屋市内は一旦信号待ちになるとかなり長い時間立ち止まらなくてはならないが、車が来なかったら、信号が赤でも行くことが多かった。

久屋大通りで左折するところを真っ直ぐ進むとしたランナーがいたので加村さんが声を掛けた。初めての参加者だろう。越田さん、スーツ姿の浅井さんの応援があった。越田さんはいつも通り、残り距離表示板を出されていた。この付近は官公庁、ビジネス街とあって、平日なのでスーツ姿が目立つ。通勤者から見れば道路いっぱいになるランナーは邪魔に思えるだろう。

幾度となく信号待ちを重ねて前に進む。いつも通り、トイレに駆け込み、その付近ではビデオ撮りされている郷さんの姿があった。市役所前ではエイドがあり、水分を補給した。このエイドは初めてだった。城北橋で左折し、名古屋城の天守閣を見ながら、国道22号線方面に右折する。幅下橋(10.7km)は1時間12分と昨年より2分遅い程度。でも、ちょっと速いかもしれない。

昨年より参加者は多いが、集団はバラバラ状態に思える。私のいる集団には高岡さんの姿もあった。ここでも平日なのでスーツ姿が目立つ。庄内川の手前、名鉄高架下で前日に水野さんから聞いていた大きなエイドがあった。水野さんの会社のように、仕事を止めてエイドして下さっているようだ。有り難いことだ。パンと水を頂く。水野さんも一生懸命応援されていた。ここから先は太陽の光をまともに受ける形になる。気温も上がってきた。持参のミノサプリを頻りに飲むようにした。このグループは丹代さん、加村さん、藤本さんといった速いランナーが先導し、その中にいた韓国人ランナーは半袖、ランパン姿で何も所持していなかった。お金も持っていないだろう。「ええ、これで最後まで行くつもり」と不思議に思えたが、速いタイムでゴールしたらいい。3回目の参加だったらしい



が、マナーという面で大会をどう心得ているのだろうか。

その先では集団で橋を渡ると昨年同様、橋が大きく揺れた。気分が悪くなるくらいだった。途中、さくら道サポートカーが声を掛けて通り過ぎて行った。清洲の御園歩道橋(17.7km)から丹代さん、藤本さんがペースメーカーになり、ペースが更に上がった。加村さんは遅れ出していた。真っ直ぐで遮るものがない歩道をキロ6分を切るペースに上がっており、自分でも速いと感じていた。それにしても暑い。この先、大丈夫なのだろうか。

■一宮裁判所前(27.3km)

4月28日 9時54分

三浦さん、関家さん、郷さん達に迎えて頂く。昨年より早くなっていた。早過ぎるのはわかっているが、目標タイムがあるので仕方ない。水分をたっぷり補給し、写真を撮ってもらう。ここからは集団がバラバラになった。一宮駅前から北上すると更に暑くなってきた。車の量は相変わらず多い。今伊勢跨線橋手前ではマイペースで進んできた加村さんに抜かれる。加村さんはこのペースで最後まで走り切られるのだ。凄い。まだ走れているが、ややへばってきた感じ。木曾川橋手前の上りでは歩いた。この辺りの道路は渋滞していた。



木曾川橋を渡り切ったところには「佐藤良二さん、ありがとう。さくら道、惚れて通れば、千里も一里」の横断幕があった。昨年とは表現が違っていった。エイドでは水分を頂く。柳津東塚(37.1km)を右折、ちょうど11時を回ったところだ。そろそろ昼食時間なので、昨年同様セルフのうどん屋「どんどん庵」に入った。梅田さん、吉村さん達はすでに中に入れていた。おにぎり、冷やしうどん、冷や奴、缶ビールを買い、冷たい水で口を潤しながら食べる。冷房が気持ち良い。梅田さんが先に食べていたので急いで食べようとするが、どうも口に入りにくい。うどんがやや固くて太いためかもしれないが、無理矢理

入れ込もうとはしても少し残った。ゆっくり食べられなかったこともあるが、ビールも、おにぎりも残した。胃がやや受け付けにくくなっていることがこの時すでに気になっていた。

北に進むとその先の高架下にエイドがあり、冷たいタオルを差し出して頂いた。顔を拭くと気持ち良い。お菓子、オレンジ、水分を頂く。食べた後なので、少し歩くことにした。昼食前からすでに歩きも入ってきており、暑さで疲れも増しているのが気になる。この辺りで今坂さんと前後する。「暑いですねえ〜」が会話の主になる。電車の踏切が2カ所ほどあったが遮断機が降りると休めるので、それを願うようになった。金津町四(42.8km)手前では薬局でアクエリオスを買う。薬局の方が安いからだ。その先の岐阜東西通りで稲垣さんに抜かれる。昨年スパルタスロンも完走されており、国際女子の常連でもあるので、さすが軽快は走りだ。道中では加村さんを大夫引き離されトップだったが、ルネスでは加村さんと女子トップで同時ゴールされた。

飲んでも飲んで暑くて、暑くてたまらない。コンビニでアイスクリームを買って、歩きながら食べる。どうもアイスクリームでさえ美味しくなくない。味覚が変になりつつある。ほとんど走れない。今無理してはいけないと思うが、走れないのが気になる。日野南6付近では溝口さんと前後した。皆さん、ここで無理をしてはいけないと思われるのか歩きが多い。飲めど、飲めど、汗がどんどん出て、身体を火照らせる。岩田駅付近ではガソリンスタンドにエイドがあった。過去なかった場所だ。若い女性がボランティアされていた。郷さんの姿もあった。冷たいタオルで顔を拭き、お菓子、水分を補給。その先にいつもある浜中さんのエイドが今年はないので、ここにエイドが設置されたのだろう。この先も暑かった。山田金男さんを抜かすと「暑いので無理はしない」と話されていた。

棚橋工業前(53.7km)では昨年Wさくら道を完走され、12月には観覧舎でお会いした館さんが歩かれていた。実力者だが練習されていないのか、それとも疲れているのか、かなり苦しそうだった。その先のコンビニでビールを買って、歩きながら飲む。丁度その頃、道路は渋滞しており、ドライバーから丸見えだった。もう、ビールでも飲まないとたまらないくらい暑い。ここで森川さんに追い着かれる。初めてさくら道に参加する時、森川さんの完走記は大変役だった。その先で今まで歩道がなかったところも整備され、広い歩道が付いて進みやすくなっていた。この先

は右側の歩道に対して、道路を横断し、左側の長良川鉄道の踏切をどこで渡るか考えながら進むが、早く渡りすぎて途中で行き止まりになった。歩道のない左を進み、ようやく正規の左側に進めた。そこに水道の蛇口があり、頭から水を被る。

東海北陸道高架下が見え、フル百回楽走会の関さくらエイドが見えてきた。予めメールで福井さん、吉藤さんからは連絡を頂いていた。福井さん、吉藤さんにメールの御礼を言っていると側には岐阜羽島から便乗させてもらった98年富士五湖以来の再会だと思う武藤さんの姿があった。懐かしい。吉藤さんに福井さん、溝口さん、山田金男さんと一緒に写真を撮って頂いた。エイドでは椅子に腰を掛けて、そうめん、フルーツ、パン、水分を頂いた。出ようとする東田さんが到着されていて、まだまだ元気だった。

栄町4丁目(59.5km)を左折し、美濃市役所に向かう。通過時間は14時40分。昨年と一昨年の中間くらいだった。ここからも暑かったが、風も出て、若干ではあるが凌ぎやすく感じるようになってきた。歩道に凹凸があり、進みにくい。歩きが圧倒的に多いが、走りも入れながら腕を振って前に前に進んだ。少し先から東海北陸道高架下までは歩道のないところが多く、車には十分気をつけるようにした。道端に水道の蛇口があれば、頭から水を被った。その頃、同じ滋賀県から参加の山口さんの姿を発見。辛そうな走りをされていた。「完走は無理だと思うので、どこかでリタイヤしたい」と話されていたが、安定したタイムで過去完走されている実力者だけに最後は苦しいながらも辛抱され、ゴールされたのは流石だ。

■美濃市役所前(66.4km)

4月28日 15時41分

この付近はランナーがやや固まり始めていた。市役所前では巨人軍団の斉藤さんが休まっていた。暑さのせいだろう。美濃市役所前は去年より30分遅れで通過。この先、少し心配になってきた。先の交差点を左折したところに美濃市役所エイドがあった。冷たい水を頭から掛けて頂く。水分とお菓子、オレンジを補給。ここからは長良川沿いになるが、例年より暑いので凌ぎやすさは余り期待できないようだ。今日は平日なので車が異常に少ない。昨年の停滞とは一変だ。相変わらず走り歩きを交互に入れて進むと浅井さんの奥さんのエイドが見えた。今年はひとりで段取りされていた。側にある冷水で頭から水を被り、顔を洗い、手に水を掛けた。いつものことながらこの冷水は最高に気持ち良い。エイドではお茶を頂く。16時だというのに路面温度は25℃を表示しており、今日の暑さを物語っていた。右側に水車があり、そこに鯉のぼりがなびいていた。



立花トンネルを潜るといつもはチームくろひげのエイドがあったが、今年は平日なのでなかった。横浜ナンバーなので平日は無理だろう。大きなエイドは例年通り設置頂いているが、小さなエイドはほとんどなかった1日目だった。どんどん水分を摂り、自販機にも寄った。須原トンネル手前の州原橋では例によって鯉のぼりが川幅いっぱいになびいていた。この光景を見るのも3回目だ。その先に道の駅「美並」まで1kmの表示があった。表示が見えると元気が出て、走り出せた。

道の駅「美並」(76.3km)には17時05分に到着。かけそばとビールを注文。先着の梅田さんから声を掛けてもらう。話をするにも声が枯れ始めていた。そばは美味しくない。ビールも飲み辛い。昼食と同じ状態だ。Wさくら道の八重樫さんが着かれた。凄い人だ。店から外に出ると今食べた物を一気に鉄砲魚の如く吐いた。やはり相当内臓がやられているようだ。しかし、このままだとやばいので吸収の良いアイスクリームを自販機で買って歩きながら食べた。

1kmほど先の右の広場では例年通り、折橋さんの経営されるカイロプラクティックの若者によるマッサージをやって頂く。藤井郁浩さんは気持ち良かったと言って先に進まれた。今回は若い女の子だった。15分ほどやってもらったが、疲れが取れ、気持ち良くなった。ウトウトしたと思う。その時、折橋さんもマッサージを受けられたようだった。マッサージをやってもらってから、かなり走れるようになってきた。そして、気温も下がり始め、やや凌ぎやすくなってきた。徐々に胆がよく出るようになっていた。それも鼻が固まったようなものだった。すぐに口から出さないと気持ち悪かった。日も暮れ始めていた。その先では灯りを付けた「まん真ん中の里」のシンボルタワーが右の丘にそびえ立っていた。

下田橋付近で藤井満博さんを追い越す。前半かなり頑張られたようだ。少し先では長崎由里子さんも抜かした。由里子さんは交互に走ったり、歩いたりを繰り返して進んでいたが、昨年ほどの軽快さはないようだ。相棒の長崎マツちゃんは55kmでリタイヤされたようだ。由里子さんは心配だろう。コンビニに入ってアミノサプリを買う。午前中に買ったアクエリオスは生温くなって、味が変わり、飲めなくなっていた。

美並町役場(82.5km)は18時35分に通過。役場前に移動エイドを開いて下さっていたのでお菓子と栄養ドリンクを頂く。徐々に気温も下がり、17℃になっていた。長い下りがあると走った。眠気防止の点滅ふくろうが3基あった。その先はトンネルの迂回が長良川沿いにあるので、森川さん、由里子さんとそちらに回った。旧道の話がその時出ていた。カーブのコーナーのところで昨年同様、エイドを設置して下さっていた。スイカと水分を頂く。

その先の深戸駅前では暗い中、桜並木が並んでいるのが確認できた。道路が見づらいのでLEDライトを取り出し、頭に付ける。過去2年間、三日市トンネルのところは間違っただけでトンネルを通ってしまったので、今年は間違えないように注意して旧道に回った。この迂回は結構長く感じた。ここから郡上八幡までが長かった。八重樫さんが追いついて来られた。この間は結構、頑張ってたよ。オートレストランが見えたのでここを右斜めに進み、郡上八幡駅前へ向う。

■郡上八幡駅前(95.5km)

4月28日 20時22分



昨年より、約40分少し遅く到着。郡上八幡駅では暗かったが写真を撮った。美並で戻した影響はなくなったようだ。エイドが見えてくると元気が出て、前を走られていた竹内さんを抜かした。いつものサークルK前に郡上八幡エイドは設置されている。エイドはランナーでいっぱいだった。まず、毎年お世話になっている美人のママから郡上八幡通過証を手渡しして頂いた。ビデオの郷さんの姿もあった。丹代さんや山口さん、藤井郁浩さんは先着。具抜きのみそ汁、竹の子ご飯のおにぎり、牛乳等を頂く。長目に休んだ。その後、南藤さん、由里子さんも到着。エイドを後にしてから、タオルをエイドに置き忘れたことを思い出したので、引き返した。少し進むと右側を進んだが、長い間歩道がないので十分に足下の注意をして進む。危ないところは絶対に歩いた。



この先、東海北陸道高架が何回か交差することになる。大和町に入った頃、帰省した家族連れが道路を横断し、車に乗り込む姿に目を取られていると歩道の仕切りにシューズが擦れ、もう少しで転倒するところだった。本当にびっくりし、目が覚めた。その先で藤井郁浩さんと会い、話をしながら進んだが、藤井さんもあのシーンを見ていて、転倒しそうになったそうだ。家族連れを見て微笑ましいと感じたからだろう。藤井さんとは今年の経過などを話し合いながら歩いた。藤井さんはこの頃、お腹が変と言い、何度か野糞された。去年の富依さんと同じだ。ヨーグルトが食べたくなったのでコンビニに寄る。

おくみの農協大和南支店前(105.1km)には22時05分に到着。本田よのさんのエイドがあり、よのさんも元気だった。毎年のことながら、大和は遅い時間になるので、頭が下がる思いだ。こちらも例年通り、中学生か、高校生くらいの女の子が手伝っていた。息子さんの勲さんも精力的に動かれていた。うどんとオレンジ、ブラックコーヒーを注文する。ついでに胃薬を飲む。

エイドを出てすぐにうどん、胃薬、水分を吐いてしまった。美並と同じだ。心配になってきた。「この先本当に大丈夫なのだろうか?」と自問自答する。この頃、関さんを抜かした。先行されていたようだ。その先でまた藤井さんと会う。戻したので、できるだけ歩くようにした。八重樫さんは白鳥で朝4時まで寝て、それから走り出すと言われていた。ネイチャーの疲れが大きいようだ。白鳥町に入り、明治の松並木を過ぎ、道路が広がった辺りから少し走り

出した。由里子さんがまた追いついてきた。白鳥の中心部に掛かると桜が満開だった。一部はライトアップもされていた。民家の間にある顕彰碑までの上り坂は頑張って歩いたので先行していた5~6人を抜かした。この上りも最初の年は長く感じたが、今はそれほど感じなくなった。そして、ライトアップされた桜の木々の奥に佐藤良二さんの顕彰碑が見えた。

■桜守佐藤良二君顕彰碑(116.2km) 4月28日 23時48分

今年は顕彰碑に誰の姿もなかった。先着の藤井さんが暗い中、顕彰碑の写真を撮っていた。私も写真を撮った。すぐに折り返し、白鳥エイドに向う。急な下り坂を進むと顕彰碑に向かうランナー数人とすれ違った。暗いので誰か見当がつかなかった。昨年同様、白鳥公民館前にエイドがあり、越田さんの姿もあった。大和で戻したため、おでんの角天と具抜きのとん汁を頂く。吉富さんがちょうど出て行かれるところだった。マッサージが気持ち良さそうだったのでやって頂くと何か変で、やたら攣るように、攣るようにストレッチされた。筋肉が縮んでいるのでほぐして欲しいのにどうしてストレッチされるのか不思議だった。これ以上やってもらうと余計に筋肉が変になりそうだったので、今後のこともあり、断ることにした。このようなウルトラマラソンのマッサージ経験がないのだろうと思った。17分ほど休憩してエイドを後にする。

ふと、側を見ると富依さんではないか。話をしながら進むと「10数年前から腎臓に持病を持っていて、手がむくんできており、これは腎臓の影響でこれ以上続けるのは危険だと思うので、ここで止める」とのこと。「今年は距離を踏む練習ができていない。さくら道くらいの大会は練習していないととても身体が持つ距離ではない」と話されていた。民宿「さとう」前(117.5km)まで一緒に歩き、「友人が迎えに来てくれるので待っています。頑張ってください」と言われ、握手して別れた。すぐ先にローソンがあったので、この前で半袖シャツを重ね着し、これからの寒さを凌ぐようにした。



ここからは徐々に上りに入るが、道端の桜はまだ咲いているところもあった。ここは昼なら桜を眺めながら走れるのだが、夜なので残念だ。走ったり、歩いたりを繰り返していると道の駅「白鳥」が見えた。ここまでは以外と走れた。満開の桜の木々が薄っすら白く見えていた。左に長良川鉄道終点の北濃駅があった。暗いとわかりにくい駅だ。気温は14℃まで下がっていた。やや肌寒くなってきた。岐島ではライトアップされた数本の桜が綺麗だった。ここは駐車場かもしれない。次の急カーブでは左手の旧道に入る。その先はカーブが多く、ランナーは見えなかった。

高鷲手前でも左折して旧道に入らないといけませんが、そのポイントがわかるだろうかと考える。地図を見てわかりにくい。先行していた梅田さん、藤井さんに追いつき、旧道の話をするがわからないとのこと。そのまま真っ直ぐに進んだ。高鷲村商工会館前(128.3km)では酒井さんが待機されていて、誘導して下さった。今年はエイドがなかった。藤井さんに旧道がわからないので一緒に行って欲しいと言われ、自販機に寄っている間、待っていて下さった。梅田さんは旧道ではなく、国道156号線を真っ直ぐに進まれた。藤井郁浩さんとはこの先、荘川桜まで一緒にする事になる。

藤井さんは手袋を持っておらず、コンビニで買うと言われたので、サークルKに寄って私はアミノサプリを買った。風がかなり出てきたのでウインドブレーカーを着る。もう標高600~650mくらいまで上っているはずだ。藤井さんも寒いと言い出す。猪洞橋で国道156号線に合流し、蛭ヶ野を目指す。坂を上り始めると乗用車が右に止まった。それは水野さんの車で「何か欲しいものがありますか?」と言われ、すぐ先に小川さんのエイドもあるので、リングを頂いて先を急いだ。50mほど先の左にはチームゴジラの小川さん達のエイドが例年通り設置して下さっていた。椅子に腰掛けて暖かいコーンスープとブラックコーヒーを頂いた。先へ少し行くと藤井さんがライトを置き忘れたと言い、戻られたので先に進む。去年からバイパスにコースが変わり、楽になった。一旦上るが、また下るコースだ。この辺りは眠たかった。路肩に寄ると転落しそうで怖かった。夜中なので車はほとんど来ないが、できるだけ端に寄らないようにした。ややふらふらしながら歩いている自分がかかる。この辺りが一番眠たかった。

ダイナランド手前では携帯で話されている吉富さんを発見。電話では止めるようなことを言われていた。電話中だったので黙って抜いて行った。ダイナランドを過ぎた辺りで藤井さんが追いつかれた。ライトはディパックの中にあっただろう。道の駅「大日岳」があり、そこで後藤さん夫婦がエイドを開いて下さっていたので、暖かいコンソメスープを頂く。声が枯れていたのが美味しく、喉に気持ち良い。美味しかった。気温は7℃まで下がっていた。風があるので体感より寒く感じる。この先、2回下りがあった。いつもライトアップされている駒ヶ滝だが、今年はライトアップされていなかったの見失うところだった。橋を渡ったところのヘアピンカーブを過ぎると上りに入る。空を見上げると星がいっぱい見えた。これから朝方は冷え込みそうだ。藤井さんは眠たいので蛭ヶ野で30分仮眠すると言

われた。昨年は毛利さんと蛭ヶ野を5時に出たが、その後、調子が出て快調に進め、後半70kmは歩いたが、それでも44時間半でゴールできたそうだ。藤井さんは蛭ヶ野の位置を気にされていたが、ようやく看板が見え、上り終えた。

■ひるがの分水嶺(139.6km)

4月29日 3時52分

一時、昨年に比べ50分ほど遅れていたが、蛭ヶ野では10分以内になっていた。分水嶺公園に辿り着くと分水嶺を確認し、太平洋、日本海と刻まれた石碑の写真を撮る。この分水嶺で太平洋側は長良川となり、日本海側は庄川となって、一本の川で繋がれているのだ。これを見て、佐藤良二さんは「太平洋と日本海を桜のトンネルで繋ごう」と思われたのだった。



ほんの少し下ったところに無名会の元祖手抜きうどんエイドがあった。腹が減ったが、昨年のように食べられない。取りあえず、手抜きうどんを1杯頂き、暖房の利いた車中で仮眠を取ることにした。頂いたうどんはやはりしっかりこなかった。内臓が弱っているためだろうか。車中では5人ほど寝られていたが、1人出られたので、藤井さん、長崎由里子さんを含めた3人で仮眠した。藤井さんは携帯で30分タイマーをセットして下さった。前の席に足を掛け、足を心臓より上げると血液が下がり、足の疲れが取れると聞いたのでそうした。完全に眠ったのは10~15分だと思いが、30分横になるとかなり疲れが取れたと実感した。由里子さんは10分くらいしか横にならなかったようだ。エイドにはどんどんランナー達が入って来ていた。西本さんの姿もあった。車から出ると暖かい飲み物を頂き、御礼を言って4時45分頃出発した。外の気温は下がっているが、空は明るくなってライトはいらなくなった。しかし、吐く息は真っ白だ。

少し進むと高鷲村から荘川村に変わった。長い下りを牧戸に進む。休んだのでかなり走れた。前のランナーを捕らえることもできた。しかし、適度に歩きを入れるのでその間に後続には抜かされる。この頃、同じペースで白鳥高架下でも走っていた真中さんら3~4人組と前後し



た。結果的に下梨までは前後することになる。明るくなった下りは初めてなので、周囲を見回しながら進んだ。横の土手には残雪が少し残っていた。走っては歩きを繰り返した。どちらかと言うと私のペースだったので、藤井さんが合わせてくれたように思えた。昨年咲いていた道端の桜は今年まだ咲いていなかった。

牧戸バス停(149km)手前でゆっくりと歩いている藤村さんを追い抜いた。内臓がやられ、完走は無理と話された。藤村さんを後目に藤井さんと荘川桜を目指す。荘川桜までの距離を気にしながら、先を急いだ。何とか6時半までに着きたいと思って頑張った。山斜面には雲が

掛かり、本当に気持ちの良い朝だ。眠くはない。下りを頑張ったので岩瀬橋までは歩きが多くなった。

岩瀬橋を渡り、岩瀬トンネルの1号～3号までは歩道がなく、路肩が狭いので車が来れば立ち止まった。ドライブイン「みぼろ湖」が見えるとあと1kmあまりで荘川桜だ。前に写真を撮りながら進む玉木さんの姿があった。玉木さんは白川郷で温泉に入る予定と掲示板に書かれていたが、ちょうど良いペースのようだ。あと2つの橋を越えると荘川桜だ。水没記念碑が見え、写真を撮る。そして、荘川桜をバックに玉木さんに写真を撮ってもらう。今年の荘川桜は残念ながら、まだつぼみで、一部だけが5分咲くらいだろうか。昨年のように満開とはいかなかった。

■荘川桜(154.7km)

4月29日 6時38分



昨年より約10分弱遅れて到着。今年の荘川桜はまだ満開ではないので人出は多くなかった。エイドには10人余り入られていた。館山さん、関家さん、城定さん、ボランティアの堀切さん達に迎えて頂く。毎年サポートされている長浜の谷口さんご夫婦や夜叉ヶ池を主催される山口さんの奥さんの姿もあった。声は完全に枯れていた。のど飴を欠かさず嘗めながら進んできたが、喉が痛い。

先着の由里子さんはきついのか横になられていた。リタイヤすると言われていた山口さんはリタイヤせず頑張られていた。ウインドブレーカーを脱ぎ、カレーライスとラーメンを頂く。冷気で更に痛めた喉にラーメンのスープは最高に気持ち良い。スープだけお代わりする。胡椒もピリツとして喉には良い刺激になる。藤井郁浩さんは



マッサージを受けると言われていたので、どちらにしてもここからはひとりで進むことになる。南藤さんもエイドに入ってもらった。18分休んで荘川桜エイドを出発する。

空は真っ青で今日も暑くなりそうだ。尾神橋から御母衣湖を見ると吸い込まれそうになり、怖くなる。気温は8℃だが体感温度はもっと高い。山肌には残雪がいっぱいあり、自然の大きさを感じる。尾神1～2号トンネルも歩道がないので十分に注意を払う。時間的にまだ早いので車が少なかった。1km以上ある福島保木トンネルではペースを上げて走った。左側歩道を走っていると右側歩道を誰かが走られていた。追い抜いた時に確認すると林尚子さんだった。どこからか知らないが、ワープされて走られているようだ。トンネルを出たところには視覚障害者の宮本さん達のエイドがあった。ちょうど1年振りの再会だ。心優しい宮本さんは再会を心から喜んで下さった。スイカ、お菓子、水分を頂く。椅子に座っていると宮本さんは脚のマッサージをして下さった。土曜日に琵琶湖一周たすきリレーで65km走ったとおっしゃっていた。そして、宮本さんのお姉さんが石山に住んでいらっしゃるそうだ。奇遇だと思った。御母衣ダムが見えて来た。福島第2トンネル手前からダム湖側が通れるのでダム横から福島第3トンネルに入った。

■御母衣ダム(162.8km)

4月29日 8時04分

福島第3トンネルは路肩が狭く、荒れているので、最も危険なトンネルだ。車が多くなってきたので、ペースを上げて走った。トンネルを出ると陽光が目映い。14℃まで気温は上がっていた。急なヘアピンカーブを下って行くと



電発エイドが見えた。途中で御母衣ダムの写真を撮る。いつ見てもロックフィル式のダムは雄大だ。

電発エイドではコーンスープとオレンジ、パイン、水分の補給をした。長袖、半袖の重ね着から、半袖1枚になった。この先からは雪で覆われた白山連邦が見える。頑張って走り出す。いつも写真を撮るポイントからデジカメで白山連邦を撮った。「旧遠山家住宅」も撮る。今年は過去2年ほど空が真っ青な印象は受けない。ややもやっているようだ。しかし、この時期の白山連邦は雄大で素晴らしい眺めだ。巨人軍団の斉藤さんが快調に抜かして行かれた。今年の斉藤さんは好調のようだ。

平瀬T字路を過ぎたところに田口建設のエイドがあった。いつもより前だった。先着の梅田さんが横になって



いた。暑いのでいつものとん汁はお断りし、お菓子やオレンジ、水分のみ頂くことにした。大きな掲示板には通過時間が書かれていた。まだ通過者は40人余りで、女子では稲垣さんが3時台で通過。4時台の加村さんを大夫先行していた。長尾さんは7時台に通過されていた。そこへワゴン車が入ってきた。綱村さん、河田さん、酒井さん達りタイヤ組が休憩に入られたのだ。斉藤さんが立たれたので、後を追ってエイドを出る。田口建設は新築中だったので、エイドは前に設置されたようだった。どんどん暑くなってきたが、庄川浴いは風があり、体感気温ほど暑く感じない。9時頃からダンプカーの数が俄然多くなってきた。例によって走ったり、歩いたりを繰り返



返すが、走る方では今までで一番快調な気がする。蛭ヶ野で仮眠した効果かもしれない。歩道がないので十分に注意を払いながら進む。風が強く、ホコリがひどい。ホコリが景色を妨げている感じた。路肩に水が出ているところがあると顔を洗い、アイシングを施した。筋肉が熱を持つので気持ち良い。

その頃、右側を見るとエイドのようなものがあった。宮本さんがいらした。黒田さんが横になっておられた。黒田さんには「後悔することのないよう、進めるところまで進んだら」と私は言った。しかし、後で知ったのは横隔膜の痙攣がひどく、飲み食いができずに横になられていたようだった。もう走れる状態ではなかったようだ。スイカを頂き、先を急いだ。しったか橋を越え、野谷橋を越えたと白川郷は近い。

野谷橋では風が強く、ホコリが舞っていた。休憩していると梅田さんが抜かして行かれた。私も梅田さんを追ったが、ここからは下りが多いが梅田さんのペースが早く、追い付けなかった。道中では何度もアイシングした。10時過ぎになり、かなり暑い。白川郷が近いとあって観光バスや乗用車も多い。そうだ、今日は「みどりの日」だった。時間の感覚がなくなっているの、世の中の動きとあまりにもギャップがあると痛感する。白川郷エイド手前にあるトイレで歯を磨くことにした。ずっと口の中が身持ち悪かったのですっきりした。その先のT字路で白川郷エイドが見えているが車が多くて、なかなか横断できない。

■白川郷分岐「合掌集落」(179.5km) 4月29日 10時42分



このエイドではスイカ、お菓子、水分を補給し、梅田さんがノートに記帳されていたので、私も記帳する。今年みんな長い文書を書かれているように思えた。このエイドは日除けがないので暑い。梅田さんとエイドを後にして、「白川郷合掌集落」に向かい、写真を撮る。毎年のことなので変わらないアングルからの景色ではあるが、今年は萱の葺き替えが一部施されていた。

荻町に行くと観光客でごっちゃがえしていた。ゼッケンを見て「どこから走って来られたの?」「どこまで行くの?」と聞かれた。話するとみんなびっくりする。それはそうだろう、マゾの世界だから。アイスクリームが食べたくてスーパーに寄る。この先、上平まで何も補給できないかもしれないのでアミノサプリを満杯にする。その先に「白川郷の湯」という天然温泉施設ができていた。確か、去年はなかったはず。ここで玉木さんは入浴することを楽しみにされているのだ。とにかく暑い。喉も痛い。のど飴をなめまくる。「和田家」の写真も撮った。

白川橋を越えてから、過去2年は間違っ国道156号線をそのまま進んだが、今年は正規の旧道に入った。家の前にある水で顔を洗い、足をアイシングした。広場



では観光バスが止まっており、リタイヤしたランナーが7~8人座っておられた。最長老75歳の渡辺さんの姿もあった。右に道の駅「白川郷」があるが、そのまま通過して飯島トンネルに向かう。梅田さんは道の駅に寄られた。

ここからは長いトンネルと防雪シェルターが続く。日陰が多い分助かるが、歩道がないので事故には十分気を付けなければならない。今年は祝日にも関わらず、車の量はかなり少なく感じた。最初の飯島トンネル(1873m)の歩道は足元が悪く、滑りやすかった。昨年同様、トンネル内を清掃された参加者がいるようで、歩道は綺麗に整備されていた。おそらく佐藤斗南さんがされたのだろう。この先も同じように清掃して下さったみたいだ。中は涼しく、一気に別世界に来たようで急に元気が出てくる。最初は歩いたが、途中から走り出せた。トンネルを出ると防雪シェルターがあり、雪解け水が頭の上を流れて庄川の方に流れ落ちる大きな音がしていた。この先、防雪シェルターは全てそうになっていた。

次の新内戸トンネル(1322m)は昨年と違ってそれほど足元は悪くなかった。ここも結構走れた。トンネルを出ると椿原橋で、その先は若干、風があるが障害物がなく、暑かった。道端から流れている雪解け水で顔を洗い、アイシングして凌いだ。飛越橋のところでエイドが設営されているかどうか気になりながら進む。加須良橋からは「飛越峽合掌ライン」といい、橋を越える毎に岐阜県と富山県が交差することになる。



次の加須良トンネル(1038m)は完全に乾き切っていたので走りやすかった。去年は凄い排ガスとホコリで辛かったが、今年は嘘みたいに排ガスもホコリもなかった。去年は春の訪れが早かったため、乾燥していたのかもしれない。トンネルの後半でようやくランナーが見え、出口手前で抜かす。山田幸一さんだった。やや後ろ姿からきつそうに見えた。

トンネルを出ると合掌大橋。今年はもの凄い風で真っ直ぐに進めないうらいだった。走ることはとても無理で歩道を歩くことさえ怖く感じ、車が少ないので車道を歩いた。風が強く、ホコリもひどいので景色を満喫するどころではなかった。次の短いトンネルを出ると飛越橋があり、その先で遠くからエイドの方が手を振って迎えて下さった。「ああ、エイドがあった」と嬉しくなった。今年もチーム

くろひげの方がエイドを出して下さっていた。「毎年ありがとうございます」と言って、休憩させて頂く。金沢さん、寺澤さんが休まっていた。炎天下なので休憩も暑い。おでんを食べていると「缶ビールは如何ですか？」と言われ、お言葉に甘えた。それにしても強い風と凄いホコリだ。つまみ、お茶を頂き、出発。この1時間ほど頑張ってきたので、そのリバウンドで走れなくなっていた。急な下りは走ったが、小白川橋辺りからは完全に歩きだった。水もそろそろ切れてきた。気温は22℃を表示していた。道の駅「上平ささら館」までは2.5kmほどあった。

歩いて何とか道の駅「上平ささら館」(197.3km)に辿り着くと「たんぽぽ」で五箇山とうふ井ではなく、カレーでも食べようと思っていたが、いつもより車が多い。「たんぽぽ」の中を覗くと満席だった。うどん、そばの方は空いていたが、昨日戻っていたのでちょっと食べられない。仕方なく別の店を探すことにした。「たんぽぽ」に入れなかったことは少しショックだった。その付近で2軒ほどを覗いたが自分の食べたい物がなかった。民謡歩道を過ぎると「くろば温泉」までは何も無い。「くろば温泉」でカレーを食べることを決意。しかし、この間は上りでもあり、歩道も悪く、辛かった。14時を回り、一番暑い時だ。自販機も少なく、やや頭がぼお~としてきた。

そんな中、眼下に「越中五箇山管沼集落」が見えたので写真を撮る。素晴らしい眺めだ。休みとあって車も人も多い。ようやく上平村役場に辿り着き、その先にある「くろば温泉」のレストランに入ることにした。レストランは2階



にあったが、足を伸ばして食事できるので疲れが少し取れる感じがした。カレーライス注文し、靴下を脱いで足を見るとママができていたので水を抜く。出てきたカレーはやや辛かった。味覚が変になっているので、本当の味はどうだったかわからない。この先、ママが痛まないよう鎮痛剤も飲む。冷水をたくさん飲んだので水分補給は十分だ。約25分休憩し、出発。食べた後なので上梨までは歩くつもりだった。小原ダムで先を進む4人組を発見。丹代さん、吉田さん達だった。湯出島橋で真中さん達3人組に抜かれたが、丹代さん達4人組は抜かす。

「こきりこの里」に着くと喉が乾いたのでペットボトルを購入。いくら飲んでも喉が乾く。今年はビールを飲まなかった。向かいには合掌造りの家の前に桜が咲いていた。合掌造りには桜が似合う。上梨トンネル内は半分くらい走り、下梨に向かう。ここで真中さん達3人組をまた抜かす。間もなく下梨だ。頭上に五箇山への上り坂が見え、頑張らなければと気合いを入れる。



■下梨(209. 2km)

4月29日 15時46分

下梨にやっと到着。過去2回は16時を過ぎていたが、今年は15時台に到着。リタイヤされた藤本さんがサポートに回られていた。42kmでリタイヤされたようだ。三浦さん、もみさん、こちらもリタイヤされた美智子さんに迎えてもらう。おかゆを頂くが、具が入っていたので具抜きをお願いする。五箇山豆腐、お菓子、水分も頂く。ゆっくり休憩をさせてもらった後、御礼を言って、五箇山の壁に臨む。腕を前後に振って必死で上る。対面の山を眺めると斜面の針葉樹がとても綺麗で、気持ちを落ち着かせてくれた。頭上を眺めると車が走っており、「あそこまで上らないといけないのか」と自問自答する。寺澤さん達2人組に手を上げて抜かして行く。歩くのもきつい。梨谷トンネル(812m)手前の広場でリタイヤした富山の男性が車越しに鮎を下さった。そして、梨谷トンネルは全て歩いた。

トンネルを出ると左手に五箇山スキー場の看板が見えた。道路横の土手は残雪でいっぱいだった。一昨年の雪の量と変わらないくらいだと思う。深い谷に掛かる赤の欄干の梨谷大橋は歩道がないので、車に注意しながら、慎重に歩く。下を見ると谷に吸い込まれそうだった。そして、いよいよ五箇山トンネル(3072m)を越えなければならない。去年は走ったが、今年は歩いて進んだ。車道に降りて走る寺澤さん達に抜かされてから、元気が出て、私も車道に降りて追い掛けた。かなりペースは上がり、キロ6分くらいで走った。車が来れば歩道に上がった。しかし、車は少なかった。何故か、寺澤さんに抜かれると追い掛けたくなくなってしまう。トンネルの出口が見えると左の歩道に移動。五箇山トンネル出口(217. 7km)は17時45分だった。その先にはエイドがあるはずだ。いつもの場所に浅井さんご夫婦、越田さんのエイドがあった。サラダ、パンを頂く。サラダが美味しい。越田さんは残り47. 7kmの看板を見せられていた。横にマッサージもあったが、ペースが上がっていたので長居はせず、先に進むことにした。

ここからは下りだ。下りでもトンネル内ほどペースが上がらない。下りの途中で長袖に着替えた。空はやや雲が掛かってきており、風がそれほどなく肌寒さは感じなかった。この下りで松倉さん達はタクシーで追い抜いて行かれたようだ。気がつかなかった。途中で3台ほどの車からスピードを緩めて声を掛けてもらった。「頑張ってください」「どこから走って来られたのですか?」「どこまで行かれるのですか?」と。後半の辛い時だけに一声は嬉しいものだ。下り切ったからは走れなくなった。頑張り過ぎた反動か。大鋸屋を越えたところで反対車線を丹代さんが追い抜いて行かれた。ゆっくりではあるが走られていた。城端の商店街や城端橋を通り過ぎ、福光に向かう。今回は何故か近く感じた。ガソリンスタンド前にはさくら道参加者を激励する看板もあった。福光に入る手前で歩いていると「おおひらさん」と車から声が掛かった。何と吉田久美子さんだった。2日から萩往還もあるのに京都から応援に来て下さったのだ。知人の応援は嬉しいものだ。

いつも寄るファミリーマートはパスすると、その先に運良くエイドがあった。去年より大夫手前だった。松島惣糸福光工場のエイドだと思う。丹代さんが先着されていた。そばと地ビール、お菓子、水分を頂く。丹代さんは「ビー



ルを飲むと眠たくなるので」と言われて、ビールは断られた。隣のランナーに話しかけるが反応がなかった。初めての参加者みたいだ。寺澤さんが到着。持参の小さな写真付きプリクラを配られていた。何のプリクラだろうか？。エイドを出た後、その先のJRと並行になる部分では一瞬右に行きそうになり、慌てた。

福光橋までは道路の歩道は狭く、凹凸が多いので、できる限り車道を進んだ。マウンテンバイクの2人組の女性が声を掛けて追い抜いて行った。先ほどエイドで隣に座っていたランナーを追い抜き、信号を左折。「坂上松華堂」に到着するとたくさんの女性の方が迎えて下さった。先ほど追い抜いて行ったマウンテンバイクの2人組の女性もいた。さくら道の応援に来られたようだ。後で、この2人は郷さんと同じ越生七福神TCの方だったと知った。信号手前で追い抜いたランナーが来ない。信号で間違っただろうか？。気にしながら、具抜きのおかゆとブラックコーヒーを頂く。道を間違ったと思われるランナーも到着。坂上のおかあさんは「明日ルネスに行くから、会いましょう」と言われた。御礼を言って出発。

■福光橋(231.1km)

4月29日 20時05分

20時を過ぎ、福光の商店街もそろそろシャッターが閉まっていて、人影はほとんどなかった。先程のマウンテンバイクの女性は道の駅でエイドすると言って出発されたが、忘れ物をしたらしく、逆行された際にすれ違った。道の駅「なんと一福茶屋」はまだ開いており、車がたくさん停車していた。祝日なので21時まで開いているのだろうか？。無事であることを携帯で家に報告する。宿谷さんのことが心配なので電話するが通じなかった。先を急ぐ。今年は大夫早いので走れたら少し走った。

華山温泉ホテルを過ぎると真っ暗になり、ただひたすら腕を振って歩いた。新蔵原トンネル手前で丹代さんを発見。トンネルを出たところでTシャツ、ランパン姿だった丹代さんは重ね着されていたので、横を抜かして行った。この先は走ったり、歩いたりを繰り返したが、アップダウンが意外と多いことに気がついた。蔵原辺りで石橋さんを抜かず。石橋さんは2001甲州夢街道前日に同室だった人だ。腕を振って、必死で前に進むが、やや眠たい。空は曇っており、いつ降り出すかわからないような天気になってきた。天気予報が当たっている感じがした。そんな中、走れる時は走った。赤の欄干の橋が見えてきた。ここから右への急カーブがあり、県境へ通じる上りが待っている。この上り、今回は大して辛くなく、距離も短く感じた。

■富山・石川県境(241.1km)

4月29日 21時45分

去年より1時間15分、一昨年より1時間半も早く通過できた。ここでやや肌寒く感じたのでウインドブレーカーを着る。ルネスには43時間台で着くだろう。下りになるとペースを上げて走り、2人を抜いた。県境から約2km行ったところに三滝MCのエイドがあった。毎年のごとく御礼を言う。おにぎり、具抜きのとん汁、水分を頂く。テーブルに置いてあった紙コップを口にすると何と日本酒だった。慌てた。一気に飲んだが影響はなかった。背中から、肩を揉みほぐして下さる方がいて、とても気持ち良かった。佐藤早一さんの奥さんと少し話をして、エイドを後にする。まだ下りが続くので走った。下り切った辺りから、眠くなってきた。そして長い長いルネスへの道のりが始まった。昨年ほどでもないが、トイレに行く回数が多くなってきた。喉が痛く、口も乾く。幻覚は見えなかったが、前後にランナーが誰も見えないので辛い。地図を出して、現位置を確認しながら進んだ。古尾谷町の看板がようやく見えた。

まだ、古尾谷町か。この先、森本までは6km近くある。この頃、疲れから「本当にルネスに着けるのだろうか」と思うようになってきた。右側に東海北陸道が見えるが、今進んでいる国道304号線と東海北陸道がクロスするところまで早く進みたいと思うがなかなか見えて来ない。本当に着けるのかと何度も何度も真剣に思うようになっていた。そして、暑くなってきた。頭から水を掛けたい。いつ頃から雨が降り出すのだろうか？。早く降って、体温を下げて欲しい。東海北陸道高架下を潜り、コンビニでミネラルを購入。頭から水を被る。気持ち良い。この先、森本までも長かった。幾つかの交差点を越え、ようやく森本(252.1km)に到着。23時54分だった。

左折し、兼六園を目指す。東海北陸道高架下を潜った先にエイドがあった。酒井さんの妹さんのエイドで、笹の葉寿司と水分を頂く。「眠い」と言うと家の中で寝ますかと親切なお言葉を頂く。石橋さんが到着。暑いのでウインドブレーカーを脱ぐ。酒井さんの妹さんと少しお話し、エイドを後にする。この先、石橋さんとは兼六園先まで前後した。雨がポツリポツリと降り出して来た。金沢市内に入ってからはやけに暑い。脱水がどんどん進行しているみたいだ。地図を見ながら進むが、現在位置が暗くてわからない。行けども行けども浅野川が見えない。居酒屋で「橋場の方向はこれで良いのですか？」と聞くと、「良いですよ」と言われ安心。少し、疲れで感覚が麻痺しているみたいだ。

雨は本降りになってきた。しかし、体温上昇を抑えてくれるほどの雨とは思えなかった。それほど体温が上昇しているのか。時間より長く長く感じながら川を渡るとようやく橋場に到着。この先は地図をよく見ながら進むが、去年コースをしっかりと覚えたので問題なかった。石橋さんは兼六園下で私を待っていた。コースがわからないのでくっ付こうとされていた。道路を横断し、坂を上ると桜並木があり、その一番奥に佐藤桜があった。酒井さんの姿が見えなかったの、ここでは上の道か、下の道か迷ってしまった。

■兼六園・1500本佐藤桜(258.7km) 4月30日 01時17分

酒井さんの出迎えを受け、「1500本佐藤桜」に案内頂く。酒井さんと握手。「あと7kmですよ」とおっしゃられた。桜は当然散っていた。雨足は強くなり、風も出てきた。その先の官公庁街を越え、香林坊の金沢東急前まで進み、右折してむさしに向かう。足の甲が痛むのでインドメタシンクリームを塗るが、その間、石橋さんは待たれていた。人気のない金沢市内を必死で歩く。雨足が強くなったお陰で幾らか体温も下がったようだ。むさしで左折し、むさし西でまた左折と進み、石橋さんにはこのまま進めばわかると説明し、先に行って欲しいと言う。ここに三滝MCのエイドで一緒だった佐藤守さん達だったので石橋さんは合流された。雨足は更に強まり、風も音がするほど強くなってきた。自販機で水分を補給。JRの跨線橋を越え、ひとりで黙々と歩く。二口町交差点に来ると関家さんがいらしたが、雨風よけに建物の影に隠れてチェックされていた。「ルネスまであと3kmです」と言われ、お礼を言って先に進む。歩いていると足音が聞こえてきた。丹代さん、金沢さん達3人に抜かされる。北陸鉄道跨線橋を過ぎ、必死で腕を振って進む。

■ルネス金沢(265.4km) 4月30日 02時33分

目の前にルネスが見えて来た。「ああ～、今年も無事辿り着けた」と安堵する。ここからは走り出せた。点滅灯がまばゆい。右折すると「ルネス金沢」の正面が目の前に。前のランナーが見えたので歩いて調整。そして、ゆっくり走りながら、中央を進む。拍手で迎えて頂く。階段を軽く上がり、ゴールテープを切る。いつものことながら、このゴールこそ道中の苦しみを忘れさせてくれ、何とも言えない最高の気分させてくれる。過去2年より、2時間早くルネス金沢に着けた。ゴールタイムは43時間33分11秒だった。後ろに誰もいなかったので自分のデジカメでテープを切っている姿の写真を撮って頂く。



外はまだ暗闇。スタッフや出迎えの方々に御礼を言い、何度も頭を下げた。先ず、城定さんが手を差し伸べて下さった。「ありがとうございます」とただただこの言葉しかない。感謝、感謝だ。館山さん、ビデオを回されていた郷さん達と握手。そして、白鳥でリタイヤされた海宝さんと握手。いつものことながら懐の大きな海宝さんと握手すると喜びが込み上げてくる。名古屋から金沢まで何のトラブルもなく、無事に旅することができ、そのことが一番嬉しかった。その後、金沢市内は暴風雨になったらしい。

ルネス金沢にて

ルネスの中に入るとタイツやウェアを脱ぎ、ランパンと長袖1枚だけになって、絨毯で横になるが、なかなか眠れない。疲れ過ぎているようだ。脱水が思っていたよりはるかに進行しているのかもしれない。体温が下がってくれない。5時頃に温泉風呂に行くと下り階段で目眩がした。そこにうずくまって回復を待った。先ず、水風呂に入って体温を下げた後、伸びた髭や汗まみれの身体を洗い、温泉と水風呂に交互に入り、疲れを癒した。再び、横になって休んだ。松倉さんは暑さでリタイヤされ、長尾さんは40時間を切ってゴールされた。宿谷さんはどうなのだろうか、気になる。初完走された梅田さんと朝食を食べに行く。腹が減っていたので朝食はたくさん食べられた。宮本健一さんや松倉さん、梅田さん、田中さんご夫妻と話をしながら時間を過ごす。

トイレに行くと真っ黒な血便が出た。暑さで内臓がやられたのだろう。こんなのは初めてだ。道中一緒に走った藤井郁浩さんは47時間をオーバーしてゴールされていた。話をすると「大平さんに潰された。走る時のペースが早過ぎる」と指摘され、人と一緒に走ると迷惑が掛かる走り方だと我ながら痛感する。この走り方は直せないのでは仕方ないかと納得した。宿谷さんは昨年より、更に厳しい状況だったにも関わらず、今年も時間内完走され、改めて精神力の凄さを見せつけられた。下梨は21時半頃だったそうだ。

11時からの懇親会では綱村さん、平さん、松倉さん、長尾さん、梅田さん、武田さん、宿谷さん達と座った。お膳を囲んで、はじめに初めて酒井さんが挨拶された。「さくら道は今後も永遠に続く」とお話され、続いて海宝さんの挨拶があった。海宝さんは「故小野健一さんとの約束が10年は続けるだったので、その約束は果たせた。ただ、申し



込みが多すぎて200人の方にはお断りをした。本当に事務処理が大変な状況。来年以降の開催は考え直したい。自分の人生のこともあるので、この先さくら道ばかりに時間をとられるのはどうか、よく考えて9月には結論を出したい」と話された。

さくら道は最高の大会なので今後も続けて欲しいと思うが、スケールが余りにも大き過ぎて、主催する方々の大変さを考えると参加する側だけの我がままを通す訳にもいかないと思う。その後、関島秀樹さんがギターを片手に故佐藤良二さんを偲ぶ歌を語り口調で歌われ、会場は盛り上がった。完走者には完走賞が贈られ、福光の方々による郷土踊り、ビンゴゲームと13時まで懇親会は続いた。今年もビンゴゲームは駄目だった。懇親会が終わる頃、昨年、金沢市内を一緒に走って頂いた星崎さんから声を掛けてもらおうと1年前のことを思い出し、本当に早いと感じる。

懇親会が終わるとルネスのシャトルバスでJR金沢駅に向かう。雨は止んでいた。ルネスを出る時、郷さんから昨年のビデオと写真を頂く。有り難い。金沢駅に着くとサンダーバードがタイミング良くあった。ホームで慌てて立ち食いそばを食べ、西堀さん、河田さん、森川さんも加わって一緒に帰った。西堀さんは前週のネイチャーランも28時間台で完走され、この日も36時間台で完走された。昨年もWさくら道だったが凄い人だ。車内では福井辺りからよく寝た。そして、栗東には17時に着けた。こうして2003年さくら道270kmウルトラマラソンは幕を閉じた。



さくら道を終えて

今年のタイムは昨年より2時間近く早かったが、1日目の暑さが災いし、内臓へのダメージが大きかった。それと風邪の影響もあった。1日目の昼食を残した事。2度も食べた物を全て吐いたこと。やはり内臓に相当負担が掛かっていたのだろう。自分が思っていたより、結果は正直だ。しかし、足への負担は少なかった。腫れもなかったし、

若干足首が痛かっただけです。太股もそんなに疲れなかった。しかし、内臓が元に戻るには時間が掛かると感じた。少し、走るのを控えようと思う。この際、頑張ってくれた身体と内臓を休ませる必要があると痛感した。しかし、休養どころか、GW後半からは弱った体に風邪をこじらせ、風邪が治るまで2週間も掛かった。ともあれ、走る前は41時間くらいを目標にしていたが、うまくいけば可能だったかもしれない。しかし、何が起こるかかわからないし、適度な休憩や食事も必要なので、後々のことを考えて、あまりタイムにこだわるのはどうかとも思った。

今年でさくら道270kmウルトラマラソンが最後かもしれないとの情報が流れ飛んでいた。それで、内心は2月頃から「さくら道国際ネイチャーラン」に結びつくような走りをしたいと思っていた。3月にペースを上げて長い距離を踏んだのはそのためだった。終わってみて、あわ良くば40時間を切れれば、など甘い考えだったことを痛感した。ネイチャーランはそんな気持ちで走れるような大会ではないと下梨を通過した時に感じた。

帰ってから、改めてさくら道のスケールの大きさを感じた。門さんの掲示板への凄まじいばかりの書き込み量がさくら道への思いを物語っていると思う。参加している人、見守っている人の一体感、大自然の中で余りにも壮大なドラマだと感じる。そんな中を走らせてもらっている参加者は本当に幸せだ。無償の行為で手鍋下げてサポートして下さる方々にはただただ頭が下がる。今さらながら、「さくら道だから、名もないランナー達にやって頂けるのではないか」と思わずにはいられない。

しかし、「何故、さくら道なのか?」。不思議なテーマだが、そのステージにいるものしかわからない永遠のテーマだろう。それともうひとつ、「ゴールの先に見えるものは何か?」。3回も参加しているにも関わらず、これも見つからない。これは永遠に見つからない宝物かもしれない。だから、そのステージに立って捜し求めようとしているのかもしれない。もしかして日常生活で気がついていないが、自分の糧となっているのかもしれない。

来年以降の開催が気になる。開催して欲しいという気持ちと海宝さんに負担を掛けることもできないという複雑な気持ちが入り交じる。映画『さくら』を見て感動してから丸9年、さくら道という大会を知って憧れて6~7年、そして3回目の完走を果たせた。今やさくら道は我が人生になってしまった。佐藤良二さんが人生の全てを掛けて植え続けた桜の路を走ることによって、良二さんの軌跡を辿りたいと思ったからだ。農家で生まれ育った私は幼い頃、亡くなった祖父に連れられて山に杉や檜の苗木を植えに行った。1本1本植えるのに大変手間が掛かる。だから、良二さんの1本1本の桜にどんな思いが込められていたか想像がつく。佐藤良二さんを知ることから始まった私には「佐藤良二さんのさくら道」でしかなかった。もし、さくら道270kmウルトラマラソンがなくなっても、私はさくら道を毎年とはいえないが、また必ず走ると思う。さくら道で得た教訓は余りにも大きいからだ。今、振り返るとさくら道への思いは映画「さくら」を見た時から始まっていたのは紛れもない事実であり、より一層さくら道への思いを強くした。

ありがとう、さくら道。ありがとう、佐藤良二さん。ありがとう、荘川桜。ありがとう、さくら道を愛する皆さん。

太平洋と日本海を桜でつなごう

